

## インタビュー 豊田通商(株)

## アフリカでリーディング企業を目指す

豊田通商株式会社  
 海外地域戦略部部長職 兼  
 アフリカ戦略室室長 **森 輝幸**



(もり・てるゆき)

1960年生まれ。84年慶應義塾大学卒業後、豊田通商に入社。以来、繊維や機械部門の海外営業などを担当。物流事業部長を経て2010年から現職。

豊田通商は、国内148社、海外825社のグループ会社(2015年3月)を持つ総合商社で、連結売上高は8兆円を超える。次代の自動車の進化に貢献する「モビリティ」、消費財など生活環境の向上に貢献する「ライフ&コミュニティ」、地球課題の解決に貢献する「アース&リソース」の3つの事業分野を定め、事業を展開している。アフリカ事業は90年以上の歴史を持ち、アフリカ全54カ国中53カ国において事業を行っている。日本の商社としては最も幅広い地域展開だ。

今後アフリカ地域をグローバルな成長戦略の核として強化しようとしている森輝幸アフリカ戦略室室長に今後の事業戦略をお聞きした。  
 (聞き手:本誌編集長 荒井俊則)

## 世界第5の極として重点化

## ——アフリカ進出の経緯は

当社におけるアフリカでの歴史は古く、1922年にエジプトで綿花の取り扱いを開始したことに始まる。自動車事業に着手したのは64年、日本製の自動車の完成車輸出から始まった。91年に初めてアンゴラの自動車代理店に出資。2001年には英国の複合企業ロンロー社から自動車事業を買収し、当社100%出資で6つの代理店を設置展開するなど、現地での事業経営により東・南部アフリカを中心に事業エリアを拡大してきた。大きな転換点としては12年にフランスの大手商社CFAO社(セーファーオー)を約2345億円で買収し、パートナー化したことだ。これにより、従来の基盤をさらに強化し事業拡大に向けた新たなフェーズに入ったといえる。

## ——アフリカ事業の位置づけは

当社は、地域横断的なシナジー創出のために地域軸での経営、戦略を構築する極運営体制を敷いている。今まで「豪亜極」「欧州極」「北中米極」「東アジア極」の4極体制をとっていたが、グローバルな成長戦略の柱として15年4月、新たに「アフリカ極」を立ち上げた。アフリカには現在45

人の日本人駐在員とグループ全体で約1万4500人の現地社員を擁している。全社の連結従業員数は約5万3000人なので、約3分の1の人員がアフリカで事業に携わっていることになる。

## ——その背景は

アフリカは、人口が現在の約10億人から50年には20億人に倍増し、豊富な天然資源や経済成長、生活水準の向上が見込めることから、「巨大な消費者群を有するマーケット」と言われている。特に、経済成長とともに中間所得層も一段と拡大すること、それに合わせてモータリゼーションも加速していく点も大きな魅力だ。

## ——アフリカ事業のビジョンは

「事業創造」と「人材育成」、「社会貢献」の3分野を柱にして、それぞれの分野でリーディング企業を目指していく。

「事業創造」においては、モビリティ分野はもちろんのこと、「ライフ&コミュニティ」、「アース&リソース」といった分野にも進出している。

## ——地域体制は

CFAOは、中・西部アフリカを中心にビジネスネットワークを持っている。当社は、ケニア、南アフリカに現地法人を置き、主に東・南部で事業を展開してきた。CFAOとの協業により、地